

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	岡山大学
整 理 番 号	A①-6
事 業 名	東アジア高等教育圏を見据えた中核的高度実践人＝アジアクラット育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b style="font-size: 2em;">A</b>	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、岡山大学、中国吉林大学、韓国成均館大学校の3大学が連携して、東アジア、更にはアジア全域で活躍する次世代中核的専門職業人をアジアクラットと称し、能力と資質を備えた「就職力」の高い学生を育成することを目指し実施された事業である。 事業展開では、人材育成目標を、マルチリンガル、人文社会学系、自然科学系、医歯薬系等の所属に応じた専門的知識・能力、グローバルかつリージョナル、将来の東アジアを産学官各分野で担うことのできる人材と定めて、共通科目の設定、履修コースの体系化、共通教科書の作成、ラーニング・アグリーメントに基づく履修指導、ダブル・ディグリープログラム（DDP）の実施等日中韓3大学の実質的な連携のもとに、質の保証をとまなうプログラムを着実に実施していることは評価できる。更に、岡山大学においては、人文社会学系、自然科学系、医歯薬系すべてが参画し、学部から大学院まで多くのプログラムを全学的に実施してきたことは高く評価できる。また、高い交流学生数の目標を掲げ、コロナ禍以前は目標人数を上回る交流ができており、コロナ禍においてもオンライン交流を行っている。単位取得を伴う中長期の交流に関しては、目標人数を達成できていないものの、一定人数の派遣ができていたことは評価できる。既に3大学間の連携の継続が合意されており、今後、本事業の取組がASEAN諸国に拡大していくことが期待できる。 一方で、マルチリンガル人材の育成という高い目標を定めていたにもかかわらず、それを達成できた人数は目標を下回っていることや、DDPの参加学生が少ないことから、今後、参加学生の語学力向上のための仕組みづくりを強化していくとともに、DDPを実質化し、3ヶ月以上の単位取得を伴う交流学生を更に増加させる取組が望まれる。また、今後の事業発展のために、客観的な外部評価の実施や成果の更なる普及が望まれる。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	